

審議会等議事概要

令和7年度 第2回滝川市いじめ問題対策連絡協議会 議事概要

日 時	令和8年1月23日（金）10:00～11:07
開催場所	滝川市役所 3階 301・302会議室
出席者	会 長：田中教育長 委 員：清水委員、日比生委員、今野委員、山本委員、小森委員、中川委員、景由委員 事務局：諏佐部長、福田指導参事、伊吹課長、湯澤課長補佐、伊東主査、大井主査
議 事	<p>1 開 会 進行：伊吹課長</p> <p>2 教育長挨拶 田中教育長</p> <p>市内の関係団体と連携をしながら行いますこの会議ですが、本日はその第2回目であります。今回は市教委からいじめ問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察の報告をいたしますので、委員の皆様にはご意見などをいただければと思います。</p> <p>また、今年度それぞれのお立場で活動したなかで、見えてきた課題や社会的な問題など、幅広くご意見を頂戴できたらと思います。</p> <p>みなさまご承知のとおり、滝川市におきましては、いじめのない学校づくりを目指してそれぞれの学校で取り組みを進めておりますし、教職員や児童生徒、家庭、ご参会いただいております団体含め、やはり地域との連携、これが不可欠だと考えておりますので、今後ともご支援をいただければと思います。</p> <p>本日限られた時間ではありますが、活発なご意見をいただければと思います。本日はよろしくお願いたします。</p> <p>3 議 題 進行：会長</p> <p>(1) 報 告</p> <p>①いじめ問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察(第2回)について</p> <p>②滝川市いじめ対応に係る学校組織の対応フローチャートについて</p> <p>①～②について、伊東主査より報告</p> <p>質疑応答等</p> <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートの「相談」に関する項目について、全国と比べてやや数値が落ちているとのことだが、何か考えられる要因はあるか？ <p>→各学校で教育相談期間は設定しているが、日常の困りごとについては、教師側は児童生徒から言ってくれたら聞ける、児童生徒は先生から聞いてくれたら言えるのにと、双方のミスマッチが考えられる。お互い寄り添い合える環境づくりをしていかねばならないと考えている。(事務局回答)</p>

・近頃、他市町のいじめ、というよりも傷害事件のような事案が全国報道され、話題になっている。重大事態の前には何らかのサインがあり、第一に家庭、そして学校・地域の目はそのサインを見逃した結果であると思う。したがって、大人が気づくということが、大事な要素であると思う。(委員意見)

・整列して並ぶ際、ずれている子に対して同級生が列を揃えるよう、言葉に発しない些細な行動をとったことが原因で、いじめと捉えられることがある。これは、コミュニケーションの不足・未熟さだと思う。そういったことが根本だと思う。(委員意見)

※承諾済み

(2) 協議

委員)

・学校現場で取り組んでいる相談体制の整備や周知の工夫、課題について説明

委員)

・警察署の視点で、滝川市に限らず、昨今青少年の間で発生しているネットトラブルの現状や非行防止教室の取組、情報共有体制について説明

委員)

・大学生の SNS 利用実態から、学生の傾向とコミュニケーション能力育成の大切さを説明

委員)

・学校現場を巡回するなかで、各校におけるいじめの認知は進んでいる一方、不登校の児童生徒数が増加している現状への危惧について説明

・いじめに対する指導と異なり、理由がはっきりしない不登校に対する指導は難しいことから、精神的な課題を抱える児童生徒への早期働きかけが重要であることを説明

委員)

・地域住民の立場から、書面会議の増加により、以前よりも学校と地域との繋がりが希薄になっている印象と、地域に開かれた学校体制への期待を説明

・学校や教育委員会が行っているいじめ問題に対する取組について、もっと社会に認知されていくよう期待する意見

・アンケート数値における、学校間・学年間のばらつきと、スマートフォンなどの端末利用がいじめの認知数にどれほど影響しているかを質問

→各学校においては、学年によるばらつきはあるものの、自校の数値として現在行っている取組の確認と改善に向けて動いている。スマートフォンなどの端末利用といじめの関係については、今回のアンケート項目からでは測ることは難しいのが現状。各学校においては、コミュニケーションに関わる指導や外部講師を招聘した情報モラル教育を行っているところだが、今後も引き続きそのような教育体制の整備に取り組んでいく。(事務局回答)

※承諾済み

委員)

・SNS について PTA の立場から、今年度 SNS の危険性や対話の必要性をテーマにした研究大会を開催し、保護者から好評を得たことを説明

・スマホ所持の低年齢化に伴い、学校での早期の情報モラル教育を求める保護者の声の強いことを説明

	<p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就学児や学童保育に関わる福祉の立場から、中高生に限らず、低学年層においても「ふざけ合って叩く」といった行為は発生しており、学校と連携しながら個別対応を行っている状況を説明 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察が関与した際の学校との連携および情報提供について、「子どもの健全育成サポートシステム」の適正運用を基本としながら行っていくことを説明 <p>4 今後の会議開催について</p> <p>令和8年度もこれまで同様、年2回の開催を予定 伊東主査から説明</p> <p>5 連絡事項</p> <p>なし</p> <p>6 閉 会</p>
会議資料	会議次第